

19-4 環境影響評価【選択科目Ⅱ】

Ⅱ 次の2問題（Ⅱ-1，Ⅱ-2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

Ⅱ-1 次の4設問（Ⅱ-1-1～Ⅱ-1-4）のうち1設問を選び解答せよ。（解答設問番号を明記し，答案用紙1枚以内にまとめよ。）

Ⅱ-1-1 環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会報告書（平成30年11月環境省）に記載されている「計画段階配慮事項等選定指針に関する基本的事項」に関する概要を説明し，課題及び必要な対応について記述せよ。

Ⅱ-1-2 環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会報告書（平成30年11月環境省）に記載されている「環境影響評価項目等選定指針に関する基本的事項」に関する概要を説明し，課題及び必要な対応について記述せよ。

Ⅱ-1-3 環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会報告書（平成30年11月環境省）に記載されている「環境保全措置指針に関する基本的事項」に関する概要を説明し，課題及び必要な対応について記述せよ。

Ⅱ-1-4 環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会報告書（平成30年11月環境省）に記載されている「報告書作成指針に関する基本的事項」に関する概要を説明し，課題及び必要な対応について記述せよ。

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（解答設問番号を明記し，答案用紙２枚以内にまとめよ。）

Ⅱ－２－１ 再生可能エネルギーの１つである風力発電所のリプレースは，技術の発展に伴い，設備利用率の向上が見込まれるとともに，既存の風力発電所は風量の良い地域に立地していることが多いため，このようなリプレースは，新たに風力発電所を設置することに比べ，再生可能エネルギーの供給力の維持又は増大に寄与すると考えられる。こうした状況を踏まえ，風力発電所のリプレースにおける環境影響評価手法の合理化に関して，その業務を進めるに当たり，下記の内容について記述せよ。

- (1) 調査，検討すべき事項とその内容について説明せよ。
- (2) 環境影響評価手法の合理化を進める手順について，留意すべき点，工夫する点を含めて述べよ。
- (3) 業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

Ⅱ－２－２ 環境影響評価法の改正法（平成23年法律第27号）に基づく，対象事業の実施について，下記の内容について記述せよ。

- (1) 環境影響評価法の第1種事業を1つ挙げ，その事業特性と地域特性を設定せよ。
- (2) この事業について，環境影響評価項目と環境影響要因のマトリックス表を作成し，選定した環境影響評価項目のうち，重要度の高い3項目について，それぞれの調査・予測・評価での留意点を記述せよ。
- (3) この事業が実施された場合の想定される環境保全措置について，関係者への理解を得るための方策について記述せよ。

19-4 環境影響評価【選択科目Ⅲ】

Ⅲ 次の2問題（Ⅲ-1，Ⅲ-2）のうち1問題を選び解答せよ。（解答問題番号を明記し、答案用紙3枚以内にまとめよ。）

Ⅲ-1 環境影響評価は、事業計画の立案・検討段階において、あらかじめ環境保全の措置を盛り込み、住民などとのコミュニケーションを確保することなどにより、持続可能な社会を実現しようとする有効な施策ツールである。環境影響評価法は平成9年に制定され、平成11年に施行された。平成23年4月からは新たな手続きなどを盛り込んだ改正環境影響評価法が成立し、平成25年より全面施行され今日に至っている。

- (1) 大規模な開発行為が環境に及ぼす要因として、①排気ガスを出す、②音を出す、③排水を出す、④風の流れ強さを変える、⑤土地を改変する、⑥景観を変えるなどが挙げられる。これらの要因の中から3つを選定し、影響を及ぼす具体的な行為及び環境影響について述べよ。
- (2) 上記の環境影響の中から、自身の専門とする分野を1つ挙げ、複数の環境保全措置を具体的に記述せよ。
- (3) 上記の複数の環境保全措置に関して不確実性の観点から生じうるリスクとそれへの対応を述べよ。

Ⅲ-2 法や条例などに規定されない事業において積極的に環境配慮を組み込み、それをアピールすることを目的として、柔軟な手順で実施する環境アセスメントのことをスモールアセス・自主アセスと呼ぶことがある。このスモールアセス・自主アセスは、制度に規定された手順に従うことなく、比較的自由に内容や進め方を自ら設計することができるものと考えることができる。

- (1) スモールアセス・自主アセスの設計に当たって、基本的な考え方を述べたうえで、その実施手順の流れについて図解せよ。
- (2) 自身の専門とする分野からみた場合、スモールアセス・自主アセスの評価項目及び調査・予測及び評価の手法について、留意すべき点を複数指摘し記述せよ。
- (3) 外部との情報交流・公表の仕方から生じうるリスクに関して、それに対処する方策を述べよ。